

(参考資料)

公共用水域の水質汚濁に係る環境基準等

(令和6年3月31日時点)

1 人の健康の保護に関する環境基準

(昭和46年12月28日環境庁告示第59号)
(最終改正 令和5年3月13日環境省告示第6号)

項目	環境基準	測定方法
カドミウム	0.003mg/L以下	日本産業規格(以下「規格」という。)K0102の55.2、55.3又は55.4に定める方法
全シアン	検出されないこと	規格K0102の38.1.2及び38.2に定める方法、規格0102の38.1.2及び38.3に定める方法又は規格K0102の38.1.2及び38.5に定める方法又は昭和46年環境庁告示第59号(以下「告示」という。)付表1に掲げる方法
鉛	0.01mg/L以下	規格K0102の54に定める方法
六価クロム	0.02mg/L以下	規格K0102の65.2(規格K0102の65.2.2及び65.2.7を除く。)に定める方法。 (ただし、次の1から3までに掲げる方法にあっては、それぞれ1から3までに定めるところによる。) 1 規格K0102の65.2.1に定める方法による場合は、原則として光路長50mmの吸収セルを用いること。 2 規格K0102の65.2.3、65.2.4又は65.2.5の備考11b)に定める方法による場合、試料に、その濃度が基準値相当分(0.02mg/L)増加するように六価クロム標準液を添加して添加回収率を求め、その値が70～120%であることを確認すること。 3 規格K0102の65.2.6に定める方法により汽水又は海水を測定する場合、2に定めるところによるほか、規格K0170-7の7a)又はb)に定める操作を行うこと。
ひ素	0.01mg/L以下	規格K0102の61.2、61.3又は61.4に定める方法
総水銀	0.0005mg/L以下	告示付表2に掲げる方法
アルキル水銀	検出されないこと	告示付表3に掲げる方法
P C B	検出されないこと	告示付表4に掲げる方法
ジクロロメタン	0.02mg/L以下	規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法
四塩化炭素	0.002mg/L以下	規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L以下	規格K0125の5.1、5.2、5.3.1又は5.3.2に定める方法
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L以下	規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L以下	同上
1,1,1-トリクロロエタン	1 mg/L以下	規格K0125の5.1、5.2、5.3.1、5.4.1又は5.5に定める方法
1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L以下	同上
トリクロロエチレン	0.01mg/L以下	同上
テトラクロロエチレン	0.01mg/L以下	同上
1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L以下	規格K0125の5.1、5.2又は5.3.1に定める方法
チウラム	0.006mg/L以下	告示付表5に掲げる方法
シマジン	0.003mg/L以下	告示付表6に掲げる方法
チオベンカルブ	0.02mg/L以下	同上
ベンゼン	0.01mg/L以下	規格K0125の5.1、5.2又は5.3.2に定める方法
セレン	0.01mg/L以下	規格K0102の67.2、67.3又は67.4に定める方法
硝酸性窒素 及び亜硝酸性窒素	10mg/L以下	硝酸性窒素にあっては規格K0102の43.2.1、43.2.3、43.2.5又は43.2.6に定める方法、亜硝酸性窒素にあっては規格K0102の43.1に定める方法
ふっ素	0.8mg/L以下	規格K0102の34.1(規格34の備考1を除く。)若しくは34.4(妨害となる物質としてハロゲン化合物又はハロゲン化水素が多量に含まれる試料を測定する場合にあっては、蒸留試薬溶液として、水約200mLに硫酸10mL、りん酸60mL及び塩化ナトリウム10gを溶かした溶液とグリセリン250mLを混合し、水を加えて1,000mLとしたものを用い、規格K0170-6の6図2注記のアルミニウム溶液のラインを追加する。)に定める方法又は規格K0102の34.1.1c)(注(2)第三文及び規格K0102の備考1を除く。)に定める方法(懸濁物質及びイオンクロマトグラフ法で妨害となる物質が共存しないことを確認した場合にあっては、これを省略することができる。)及び告示付表7に掲げる方法
ほう素	1 mg/L以下	規格K0102の47.1、47.3又は47.4に定める方法
1,4-ジオキサン	0.05mg/L以下	告示付表8に掲げる方法
備考		
1 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。 2 「検出されないこと」とは、測定方法の項に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。別表2において同じ。 3 海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用しない。 4 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、規格K0102の43.2.1、43.2.3、43.2.5又は43.2.6により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと規格K0102の43.1により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。		

2 生活環境の保全に関する環境基準

(昭和 46 年 12 月 28 日環境庁告示第 59 号)
(最終改正 令和 5 年 3 月 13 日環境省告示第 6 号)

1 河川

(1) 河川（湖沼を除く。）

ア

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基 準 値					該当 水域
		水 素 イ オ ン 濃 度 (p H)	生 物 化 学 的 酸 素 要 求 量 (B O D)	浮 遊 物 質 量 (S S)	溶 酸 素 存 量 (D O)	大 腸 菌 数	
AA	水 道 1 級 自 然 環 境 保 全 及 び A 以 下 の 欄 に 掲 げ る も の	6.5 以上 8.5 以下	1mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	20CFU/ 100mL 以下	水域 類型ごとに指定する水域
A	水 道 2 級 水 産 1 級 浴 及 び B 以 下 の 欄 に 掲 げ る も の	6.5 以上 8.5 以下	2mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	300CFU/ 100mL 以下	
B	水 道 3 級 水 産 2 級 及 び C 以 下 の 欄 に 掲 げ る も の	6.5 以上 8.5 以下	3mg/L 以下	25mg/L 以下	5mg/L 以上	1,000CFU/ 100mL 以下	
C	水 産 3 級 工 業 用 水 1 級 及 び D 以 下 の 欄 に 掲 げ る も の	6.5 以上 8.5 以下	5mg/L 以下	50mg/L 以下	5mg/L 以上	—	
D	工 業 用 水 2 級 農 業 用 水 及 び E の 欄 に 掲 げ る も の	6.0 以上 8.5 以下	8mg/L 以下	100mg/L 以下	2mg/L 以上	—	
E	工 業 用 水 3 級 環 境 保 全	6.0 以上 8.5 以下	10mg/L 以下	ごみ等の浮遊 が認められないこと。	2mg/L 以上	—	
測 定 方 法		規格 K0102 の 12.1 に定める方法 又はガラス電極 を用いる水質自動 監視測定装置 によりこれと同 程度の計測結果 の得られる方法	規格 K0102 の 21 に定める方法	告示付表 9 に掲 げる方法	規格 K0102 の 32 に定める方法 又は隔膜電極を 用いる水質自動 監視測定装置に よりこれと同程 度の計測結果の 得られる方法	告示付表 10 に 掲げる方法	

備考

- 基準値は、日間平均値とする。ただし、大腸菌数に係る基準値については、90%水質値（年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順に並べた際の $0.9 \times n$ 番目（ n は日間平均値のデータの数）のデータ値（ $0.9 \times n$ が整数でない場合は端数を切り上げた整数番目の値をとる。））とする。（湖沼、海域もこれに準ずる。）
- 農業用利水点については、水素イオン濃度6.0以上7.5以下、溶存酸素量5mg/L以上とする。（湖沼もこれに準ずる。）
- 水質自動監視測定装置とは、当該項目について自動的に計測することができる装置であって、計測結果を自動的に記録する機能を有するもの又はその機能を有する機器と接続されているものをいう。（湖沼、海域もこれに準ずる。）
- 水道1級を利用目的としている地点（自然環境保全を利用目的としている地点を除く。）については、大腸菌数100CFU/100ml以下とする。
- 水産1級、水産2級及び水産3級については、当分の間大腸菌数の項目の基準値は適用しない。（湖沼、海域もこれに準ずる。）
- 大腸菌数に用いる単位は CFU(コロニー形成単位 (Colony Forming Unit))/100ml とし、大腸菌を培地で培養し、発育したコロニー数を数えることで算出する。

- (注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
- 2 水道 1 級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
水道 2 級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
水道 3 級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
- 3 水産 1 級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産 2 級及び水産 3 級の水産生物用
水産 2 級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産 3 級の水産生物用
水産 3 級：コイ、フナ等、 β -中腐水性水域の水産生物用
- 4 工業用水 1 級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
工業用水 2 級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
工業用水 3 級：特殊の浄水操作を行うもの
- 5 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

イ

<div> <div>項目</div> <div>類型</div> </div>	水生生物の生息状況の適応性	基準値			該当水域
		全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	
生物 A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下	0.001mg/L 以下	0.03mg/L 以下	水域類型ごとに指定する水域
生物特 A	生物 A の水域のうち、生物 A の欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下	0.0006mg/L 以下	0.02mg/L 以下	
生物 B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.05mg/L 以下	
生物特 B	生物 A 又は生物 B の水域のうち、生物 B の欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.04mg/L 以下	
測定方法		規格 K0102 の 53 に定める方法	告示付表 11 に掲げる方法	告示付表 12 に掲げる方法	
備考					
1 基準値は、年間平均値とする。（湖沼、海域もこれに準ずる。）					

(2) 湖沼 (天然湖及び貯水量が 1,000 万立方メートル以上であり、かつ、水の滞留時間が 4 日間以上である人工湖)

ア

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基 準 値					該当 水域
		水 素 イ オ ン 濃 度 (p H)	生 物 化 学 的 酸 素 要 求 量 (B O D)	浮 遊 物 質 量 (S S)	溶 酸 素 量 (D O)	大 腸 菌 数	
AA	水 道 1 級 水 産 1 級 自 然 環 境 保 全 及 び A 以 下 の 欄 に 掲 げ る も の	6.5 以上 8.5 以下	1 mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	20CFU/ 100mL 以下	水域類型ごとに指定する水域
A	水 道 2、3 級 水 産 2 級 水 浴 及 び B 以 下 の 欄 に 掲 げ る も の	6.5 以上 8.5 以下	3 mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	300CFU/ 100mL 以下	
B	水 産 3 級 工 業 用 水 1 級 農 業 用 水 及 び C の 欄 に 掲 げ る も の	6.5 以上 8.5 以下	5 mg/L 以下	25mg/L 以下	5 mg/L 以上	—	
C	工 業 用 水 2 級 環 境 保 全	6.0 以上 8.5 以下	8 mg/L 以下	50mg/L 以下	2 mg/L 以上	—	
測 定 方 法		規格 K0102 の 12.1 に定める方法 又はガラス電極 を用いる水質自動 監視測定装置に よりこれと同程 度の計測結果の 得られる方法	規格 K0102 の 21 に定める方法	告示付表 9 に掲 げる方法	規格 K0102 の 32 に定める方法 又は隔膜電極を 用いる水質自動 監視測定装置に よりこれと同程 度の計測結果の 得られる方法	告示付表 10 に 掲げる方法	
<p>備考</p> <p>1 水産 1 級、水産 2 級及び水産 3 級については、当分の間、浮遊物質量の項目の基準値は適用しない。</p> <p>2 水道 1 級を利用目的としている地点（自然環境保全を利用目的としている地点を除く。）については、大腸菌数 100CFU/100ml 以下とする。</p> <p>3 水道 3 級を利用目的としている地点（水浴又は水道 2 級を利用目的としている地点を除く）については、大腸菌数 1,000CFU/100ml 以下とする。</p> <p>4 大腸菌数に用いる単位は CFU(コロニー形成単位 (Colony Forming Unit))/100ml とし、大腸菌を培地で培養し、発育したコロニー数を数えることで算出する。</p>							

- (注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
- 2 水 道 1 級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
水道 2、3 級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作、又は、前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
- 3 水 産 1 級：ヒメマス等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産 2 級及び水産 3 級の水産生物用
水 産 2 級：サケ科魚類及びアユ等貧栄養湖型の水域の水産生物用及び水産 3 級の水産生物用
水 産 3 級：コイ、フナ等富栄養湖型の水域の水産生物用
- 4 工業用水 1 級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
工業用水 2 級：薬品注入等による高度の浄水操作、又は、特殊な浄水操作を行うもの
- 5 環 境 保 全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

イ

項目 類型	利用目的の適応性	基 準 値		該当水域
		全窒素	全 ^{リン} 燐	
I	自 然 環 境 保 全 及びⅡ以下の欄に掲げるもの	0.1mg/L 以下	0.005mg/L 以下	水域類型ごとに指定する水域
Ⅱ	水道 1、2、3 級（特殊なものを除く。） 水 産 1 種、水 浴 及びⅢ以下の欄に掲げるもの	0.2mg/L 以下	0.01mg/L 以下	
Ⅲ	水 道 3 級（特殊なもの） 及びⅣ以下の欄に掲げるもの	0.4mg/L 以下	0.03mg/L 以下	
Ⅳ	水産 2 種及びⅤの欄に掲げるもの	0.6mg/L 以下	0.05mg/L 以下	
Ⅴ	水 産 3 種 工 業 用 水 農 業 用 水 環 境 保 全	1mg/L 以下	0.1mg/L 以下	
測 定 方 法		規格 K0102 の 45.2、45.3、45.4 又は 45.6 に定め る方法	規格 K0102 の 46.3 に定める方 法	
備考				
1 基準値は、年間平均値とする。 2 水域類型の指定は、湖沼植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある湖沼について行うものとし、全窒素の項目の基準値は、全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼について適用する。 3 農業用水については、全燐の項目の基準値は適用しない。				

- (注)
- 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
 - 2 水 道 1 級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
水 道 2 級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
水 道 3 級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの（「特殊なもの」とは、臭気物質の除去が可能な特殊な浄水操作を行うものをいう。）
 - 3 水 産 1 種：サケ科魚類及びアユ等の水産生物用並びに水産 2 種及び水産 3 種の水産生物用
水 産 2 種：ワカサギ等の水産生物用及び水産 3 種の水産生物用
水 産 3 種：コイ、フナ等の水産生物用
 - 4 環 境 保 全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

ウ

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基 準 値			該当 水域
		全亜鉛	ノニル フェノール	直鎖アルキ ルベンゼン スルホン酸 及びその塩	
生物 A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下	0.001mg/L 以下	0.03mg/L 以下	水域類型ごとに指定する水域
生物特 A	生物 A の水域のうち、生物 A の欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下	0.0006mg/L 以下	0.02mg/L 以下	
生物 B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.05mg/L 以下	
生物特 B	生物 A 又は生物 B の水域のうち、生物 B の欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.04mg/L 以下	
測 定 方 法		規格 K0102 の 53 に定める方法	告示付表 11 に掲げる方法	告示付表 12 に掲げる方法	

エ

項目 類型	水生生物が生息・再生産する場の適応性	基 準 値	該当 水域
		低層溶存酸素量	
生物 1	生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域	4.0mg/L 以上	水域類型ごとに指定する水域
生物 2	生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域	3.0mg/L 以上	
生物 3	生息段階において貧酸素耐性の高い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域、再生産段階において貧酸素耐性の高い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域又は無生物域を解消する水域	2.0mg/L 以上	
測 定 方 法		規格 K0102 の 32 に定める方法又は告示付表 13 に掲げる方法	
備考			
1 基準値は、日間平均値とする。			
2 底面近傍で溶存酸素量の変化が大きいことが想定される場合の採水には、横型のバンドン採水器を用いる。			

2 海域

ア

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基 準 値					該当 水域
		水 素 イ オ ン 濃 度 (p H)	化 学 的 酸 素 要 求 量 (B O D)	溶 存 酸 素 量 (D O)	大 腸 菌 数	n - ヘ キ サ ン 抽 出 物 質 量 (油 分 等)	
A	水 道 1 級 水 浴 自 然 環 境 保 全 及 び B 以 下 の 欄 に 掲 げ る も の	7.8 以上 8.3 以下	2mg/L 以下	7.5mg/L 以上	300CFU/ 100mL 以下	検出されな いこと。	水 域 類 型 ご と に 指 定 す る 水 域
B	水 産 2 級 工 業 用 水 及 び C の 欄 に 掲 げ る も の	7.8 以上 8.3 以下	3mg/L 以下	5mg/L 以上	—	検出されな いこと。	
C	環 境 保 全	7.0 以上 8.3 以下	8mg/L 以下	2mg/L 以上	—	—	
測 定 方 法		規格 K0102 の 12.1 に定める 方法又はガラ ス電極を用い る水質自動監 視測定装置に よりこれと同 程度の計測結 果の得られる 方法	規格 K0102 の 17 に定める方 法（ただし、 B 類型の工業 用水及び水産 2 級のうちノ リ養殖の利水 点における測 定方法はアル カリ性法）	規格 K0102 の 32 に定める方 法又は隔膜電 極若しくは光 学式センサを 用いる水質自 動監視測定装 置によりこれ と同程度の計 測結果の得ら れる方法	告示付表 10 に 掲げる方法	告示付表 14 に 掲げる方法	

備考

1 自然環境保全を利用目的としている地点については、大腸菌数20CFU/100ml以下とする。

2 アルカリ性法とは次のものをいう。

試料50mLを正確に三角フラスコにとり、水酸化ナトリウム溶液(10w/v%)1mLを加え、次に過マンガン酸カリウム溶液(2mmol/L)10mLを正確に加えたのち、沸騰した水浴中に正確に20分放置する。その後よう化カリウム溶液(10w/v%)1mLとアジ化ナトリウム溶液(4w/v%)1滴を加え、冷却後、硫酸(2+1)0.5mLを加えてよう素を遊離させて、それを力価の判明しているチオ硫酸ナトリウム溶液(10mmol/L)ででんぷん溶液を指示薬として滴定する。同時に試料の代わりに蒸留水を用い、同様に処理した空試験値を求め、次式によりCOD値を計算する。

$$\text{COD}(\text{O}_2 \text{ mg/L}) = 0.08 \times [(b) - (a)] \times f\text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_3 \times 1000/50$$

(a)：チオ硫酸ナトリウム溶液（10mmol/L）の滴定値（mL）

(b)：蒸留水について行った空試験値（mL）

$f\text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_3$ ：チオ硫酸ナトリウム溶液（10mmol/L）の力

3 大腸菌数に用いる単位はCFU(コロニー形成単位 (Colony Forming Unit))/100mlとし、大腸菌を培地で培養し、発育したコロニー数を数えることで算出する。

(注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全

2 水 産 1 級：マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産2級の水産生物用

水 産 2 級：ボラ、ノリ等の水産生物用

3 環 境 保 全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

イ

項目 類型	利用目的の適応性	基準値		該当水域
		全窒素	全 ^{りん} 磷	
I	自然環境保全及びⅡ以下の欄に掲げるもの (水産 2 種及び 3 種を除く。)	0.2mg/L 以下	0.02mg/L 以下	水域類型ごとに指定する水域
Ⅱ	水産 1 種、水浴及びⅢ以下の欄に掲げるもの (水産 2 種及び 3 種を除く。)	0.3mg/L 以下	0.03mg/L 以下	
Ⅲ	水産 2 種及びⅣの欄に掲げるもの (水産 3 種を除く。)	0.6mg/L 以下	0.05mg/L 以下	
Ⅳ	水産 3 種 工業用水 生物生息環境保全	1 mg/L 以下	0.09mg/L 以下	
測定方法		規格 K0102 の 45.4 又は 45.6 に定める方法	規格 K0102 の 46.3 に定める方法	
備考				
1 基準値は、年間平均値とする。				
2 水域類型の指定は、海洋植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある海域について行うものとする。				

(注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全

2 水産 1 種：底生魚介類を含め多様な水産生物がバランス良く、かつ、安定して漁獲される

水産 2 種：一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多獲される


水産 3 種：汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される

3 生物生息環境保全：年間を通して底生生物が生息できる限度

ウ

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値			該当水域
		全亜鉛	ノニル フェノール	直鎖アルキ ルベンゼン スルホン酸 及びその塩	
生物 A	水生生物の生息する水域	0.02mg/L 以下	0.001mg/L 以下	0.01mg/L 以下	水域類型ごとに指定する水域
生物特 A	生物 A の水域のうち、水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚子の生育場として特に保全が必要な水域	0.01mg/L 以下	0.007mg/L 以下	0.006mg/L 以下	
測定方法		規格 K0102 の 53 に定める方法	告示付表 11 に掲げる方法	告示付表 12 に掲げる方法	

エ

<div> <div>項目</div> <div>類型</div> </div>	水生生物が生息・再生産する場の適応性	基 準 値	該当 水域
		低層溶存酸素量	
生物 1	生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域	4.0mg/L 以上	水域 類型ごと に指定す る水域
生物 2	生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域	3.0mg/L 以上	
生物 3	生息段階において貧酸素耐性の高い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域、再生産段階において貧酸素耐性の高い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域又は無生物域を解消する水域	2.0mg/L 以上	
測 定 方 法		規格 K0102 の 32 に定める方法又は告示付表 13 に掲げる方法	
備考 <div> 1 基準値は、日間平均値とする。 2 底面近傍で溶存酸素量の変化が大きいが想定される場合の採水には、横型のバンドン採水器を用いる。 </div>			

3 要監視項目及びその指針値

(1) 人の健康の保護に関する要監視項目

(平成 5 年 3 月 8 日 環境庁水質保全局長通知)

(最終改定 令和 2 年 5 月 28 日 環境省・大気環境局長通知)

項目	指針値	測定方法
クロロホルム	0.06mg/L 以下	規格 K0125 の 5.1、5.2 又は 5.3.1 に定める方法
トランス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L 以下	同上
1,2-ジクロロプロパン	0.06mg/L 以下	同上
p-ジクロロベンゼン	0.2mg/L 以下	同上
イソキサチオン	0.008mg/L 以下	平成 5 年 4 月 28 日付け環水規第 121 号環境庁水質保全局水質規制課長通知（以下「平成 5 年通知」という。）付表 1 の第 1 又は第 2 に掲げる方法
ダイアジノン	0.005mg/L 以下	同上
フェニトロチオン（MEP）	0.003mg/L 以下	同上
イソプロチオラン	0.04mg/L 以下	同上
オキシ銅（有機銅）	0.04mg/L 以下	平成 5 年通知付表 2 に掲げる方法
クロロタロニル（TPN）	0.05mg/L 以下	平成 5 年通知付表 1 の第 1 又は第 2 に掲げる方法
プロピザミド	0.008mg/L 以下	同上
EPN	0.006mg/L 以下	同上
ジクロルボス（DDVP）	0.008mg/L 以下	同上
フェノブカルブ（BPMC）	0.03mg/L 以下	同上
イプロベンホス（IBP）	0.008mg/L 以下	同上
クロルニトロフェン（CNP）	－	同上
トルエン	0.6mg/L 以下	規格 K0125 の 5.1、5.2 又は 5.3.2 に定める方法
キシレン	0.4mg/L 以下	同上
フタル酸ジエチルヘキシル	0.06mg/L 以下	平成 5 年通知付表 3 の第 1 又は第 2 に掲げる方法
ニッケル	－	規格 K0102 の 59.3 に定める方法又は平成 5 年通知付表 4 若しくは平成 5 年通知付表 5 に掲げる方法
モリブデン	0.07mg/L 以下	規格 K0102 の 68.2 に定める方法又は平成 5 年通知付表 4 若しくは平成 5 年通知付表 5 に掲げる方法
アンチモン	0.02mg/L 以下	平成 16 年 3 月 31 日付け環水企発第 040331003 号環水土発第 040331005 号環境省環境管理局水環境部長通知（以下「平成 16 年通知」という。）付表 5 の第 1、第 2 又は第 3 に掲げる方法
塩化ビニルモノマー	0.002mg/L 以下	平成 16 年通知付表 1 に掲げる方法
エピクロロヒドリン	0.0004mg/L 以下	平成 16 年通知付表 2 に掲げる方法
全マンガン	0.2mg/L 以下	規格 K0102 の 56.2、56.3、56.4 又は 56.5 に定める方法
ウラン	0.002mg/L 以下	平成 16 年通知付表 4 の第 1 又は第 2 に掲げる方法
ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオktan酸(PFOA)	50ng/L 以下（暫定）	令和 2 年 5 月 28 日付け環水大発第 2005281 号・環水土大第 2005282 号環境省水大気環境局長通知付表 1 に掲げる方法

(2) 生活環境の保全に関する要監視項目（水生生物の保全）

（平成 15 年 11 月 5 日 環境省環境管理局水環境部長通知）

（平成 25 年 3 月 27 日 環境省水・大気環境局長通知）

項目	水域	類型	指針値
クロロホルム	河川及び湖沼	生物 A	0.7 mg/L 以下
		生物特 A	0.006 mg/L 以下
		生物 B	3 mg/L 以下
		生物特 B	3 mg/L 以下
	海域	生物 A	0.8 mg/L 以下
		生物特 A	0.8 mg/L 以下
フェノール	河川及び湖沼	生物 A	0.05 mg/L 以下
		生物特 A	0.01 mg/L 以下
		生物 B	0.08 mg/L 以下
		生物特 B	0.01 mg/L 以下
	海域	生物 A	2 mg/L 以下
		生物特 A	0.2 mg/L 以下
ホルムアルデヒド	河川及び湖沼	生物 A	1 mg/L 以下
		生物特 A	1 mg/L 以下
		生物 B	1 mg/L 以下
		生物特 B	1 mg/L 以下
	海域	生物 A	0.3 mg/L 以下
		生物特 A	0.03 mg/L 以下
4-t-オクチルフェノール	河川及び湖沼	生物 A	0.001 mg/L 以下
		生物特 A	0.0007 mg/L 以下
		生物 B	0.004 mg/L 以下
		生物特 B	0.003 mg/L 以下
	海域	生物 A	0.0009 mg/L 以下
		生物特 A	0.0004 mg/L 以下
アニリン	河川及び湖沼	生物 A	0.02 mg/L 以下
		生物特 A	0.02 mg/L 以下
		生物 B	0.02 mg/L 以下
		生物特 B	0.02 mg/L 以下
	海域	生物 A	0.1 mg/L 以下
		生物特 A	0.1 mg/L 以下
2,4-ジクロロフェノール	河川及び湖沼	生物 A	0.03 mg/L 以下
		生物特 A	0.003 mg/L 以下
		生物 B	0.03 mg/L 以下
		生物特 B	0.02 mg/L 以下
	海域	生物 A	0.02 mg/L 以下
		生物特 A	0.01 mg/L 以下

項目	測定方法
クロロホルム	規格 K0125(用水・排水中の揮発性有機物化合物試験方法)5.1、5.2 及び 5.3.1 に定める方法
フェノール	平成 15 年 11 月 5 日付け環水企発第 031105001 号・環水管発第 031105001 号環境省環境管理局水環境部長通知（以下「平成 15 年通知」という。）付表 1 に掲げる方法
ホルムアルデヒド	平成 15 年通知付表 2 に掲げる方法
4-t-オクチルフェノール	平成 25 年 3 月 27 日付け環水大水発第 1303272 号環境省水・大気環境局長通知（以下「平成 25 年通知」という。）付表 1 に掲げる方法
アニリン	平成 25 年通知付表 2 に掲げる方法
2,4-ジクロロフェノール	平成 25 年通知付表 3 に掲げる方法

（参考）

要監視項目は、環境省通知において、現時点では環境基準項目とせず、引き続き知見の集積に努めるべきと判断されるものとされており、今後、国等において物質の特性、使用状況等を考慮し体系的かつ効果的に公共用水域等の水質測定を行うとともに、測定結果を国において定期的に集約し、その後の知見の集積状況を勘案しつつ、環境基準項目への移行等を検討することとされている。

4 環境基準類型指定状況

(1) BOD、COD等

区分	水域名	あてはめ水域名	該当 類型	達成 期間	類型指定年月日
河川	高梁川	高梁川上流 (新見市昭和橋より上流)	A	イ	S45. 9. 1 (閣議決定)
		〃 中流 (新見市昭和橋から成羽川合流点まで)	A	イ	〃 (改訂前 Bイ) H20. 3. 28改訂 (岡山県告示第173号)
		〃 中流 (成羽川合流点から湛井堰まで)	A	イ	S45. 9. 1 (閣議決定)
		〃 下流 (湛井堰より下流)	B	イ	〃
		西 川 (全域)	A	イ	S54. 4. 6 (岡山県告示第330号)
		小坂部川 (全域)	A	イ	S45. 9. 1 (閣議決定)
		有 漢 川 (全域)	A	イ	〃
		成 羽 川 (全域)	A	イ	〃
		小田川上流 (淀平堰より上流)	A	イ	〃
		〃 下流 (淀平堰より下流)	B	イ	〃 (改訂前 Cロ) S49. 5. 10改訂 (岡山県告示第550号)
		美 山 川 (星田川を含む)	A	イ	S49. 5. 10 (岡山県告示第549号)
		里 見 川 (全域)	D	イ	S45. 9. 1 (閣議決定)
	旭 川	旭川上流 (湯原ダムより上流)	A A	イ	S46. 5. 25 (閣議決定)
		〃 中流 (湯原ダムから乙井手堰まで)	A	イ	〃
		〃 下流 (乙井手堰より下流)	B	ロ	〃
		新 庄 川 (全域)	A	イ	S53. 4. 18 (岡山県告示第332号)
		百 間 川 (全域)	C	ハ	S46. 5. 25 (閣議決定)
		砂 川 (全域)	B	ロ	S51. 4. 23 (岡山県告示第365号)
	吉 井 川	吉井川上流 (嵯峨堰より上流)	A	イ	S46. 5. 25 (閣議決定)
		〃 中・下流 (嵯峨堰より下流)	B	ロ	〃
		加 茂 川 (全域)	A	イ	S52. 4. 22 (岡山県告示第347号)
		梶 並 川 (全域)	A	イ	S48. 4. 17 (岡山県告示第424号)
		滝 川 (全域)	B	ロ	〃
		吉 野 川 (全域)	A	イ	〃
		金 剛 川 (全域)	A	ロ	〃

区分	水 域 名	あてはめ水 域 名	該当 類型	達成 期間	類 型 指 定 年 月 日
河 川	笹ヶ瀬川	笹ヶ瀬川（全域）	B	ハ	S49. 5. 10 （岡山県告示第549号）
		足守川上流 （前川合流点より上流）	A	ハ	〃
		足守川下流 （前川合流点より下流）	B	イ	〃
	倉敷川	倉敷川（流入支川を含む）	C	ハ	〃
	芦田川	高屋川（岡山県の区域内全域）	A	ハ	S50. 5. 13 （岡山県告示第571号）
	伊里川	伊里川（大谷川を含む）	B	ロ	〃
湖 沼	児島湖	児島湖	B	ハ	S46. 5. 25（閣議決定）
海 域	水 島	玉島港区（別記1の水域）	C	イ	S45. 9. 1（閣議決定）
		水島港区（別記2の水域）	C	イ	〃
		水島地先海域（甲） （別記3の水域）	B	イ	〃
		〃（乙） （別記4の水域）	A	イ	〃
	児 島 湾	児島湾（甲）（別記5の水域）	C	ロ	S46. 5. 25（閣議決定）
		〃（乙）（別記6の水域）	B	ロ	〃
		〃（丙）（別記7の水域）	A	イ	〃
	備讃瀬戸	備讃瀬戸（別記8の水域）	A	イ	S49. 5. 13 （環境庁告示第39号）
	牛窓地先 海 域	牛窓地先海域（別記9の水域）	A	イ	S48. 4. 17 （岡山県告示第424号） H16. 10. 29改訂（地名変更） （岡山県告示第617号）
	播磨灘 北 西 部	播磨灘北西部（別記10の水域）	A	ロ	S49. 5. 13 （環境庁告示第39号）

（備考） 達成期間の分類は、次のとおりである。
イ：直ちに達成
ロ：5年以内で可及的速やかに達成
ハ：5年を超える期間で可及的速やかに達成

別記

- 1 玉島灯台と浦賀玉島ヂーゼル工業株式会社敷地西北端を結んだ線より北方の海域（玉島港区）
- 2 川崎製鉄株式会社敷地東南端と宮鼻南端を結んだ線より北方の海域（水島港区）
- 3 灯籠崎南端、上濃地島北端、太濃地島東端、イザノロジ島南端、上水島北端、下水島北端、寄島南端及び青佐鼻東端を順次に結んだ線より北方の海域であって、水島港区及び玉島港区に係る部分を除いたもの。（水島地先海域（甲））
- 4 水島港区、玉島港区及び水島地先海域（甲）に係る海域を除く水島地先海域（水島地先海域（乙））

- 5 岡山市海岸通1丁目3番地の13と岡山市飽浦340番地を結ぶ線、児島湖えん堤および陸岸により囲まれた海域（児島湾(甲)）
- 6 岡山市西大寺正儀5203番地と岡山市小串321番地を結ぶ線、児島湖えん堤および陸岸により囲まれた海域であって、児島湾(甲)に係る部分を除いたもの（児島湾(乙)）
- 7 岡山市西大寺宝伝赤石3257番地の2から玉野市沼灰山1015番地の1に至る陸岸の地先海岸であって、児島湾(甲)、および児島湾(乙)に係る部分を除いたもの（児島湾(丙)）
- 8 玉野市出崎と香川県井島へガラ崎を結ぶ線、同島鞍掛鼻と同県豊島ダーダガ鼻を結ぶ線、同島札田崎と高松市長崎鼻を結ぶ線、福山市狐崎と広島県宇治島西端を結ぶ線、同島南端と香川県三崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域であって箕島町地先海域、番の州泊地、坂出港、高松港、詰田川尻並びに昭和45年9月1日閣議決定の水島港区、玉島港区、水島地先海域(甲)及び水島地先海域(乙)に係る部分を除いたもの（備讃瀬戸）
- 9 瀬戸内市邑久町福谷5288番地から岡山市西大寺宝伝字赤石3257番地の2に至る陸岸の地先海域（牛窓地先海域）
- 10 相生市金ヶ崎と兵庫県西島手繰干崎を結ぶ線、同地点と香川県小豆島藤崎を結ぶ線、同地点と岡山県稲鼻を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域（播磨灘北西部）

(2) 児島湖－全窒素、全りん

区分	水 域 名	あてはめ水域名	該当 類型	達 成 期 間	類 型 指 定 年 月 日
湖 沼	児 島 湖	児島湖	V	段階的に暫定目標を達成しつつ環境基準の可及的速やかな達成に努める。	S62. 3. 10 (岡山県公告第165号) H 4. 3. 27 一部改正 (岡山県公告第177号)

(3) 海域－全窒素、全りん

区分	あてはめ水域名	該当 類型	達成 期間	類型指定年月日	備 考
海 域	水島港区 (別記1)	Ⅲ	イ	H 9. 4. 28 (環境庁告示第19号) H15. 3. 27改訂 (※) (環境省告示第35号)	備讃瀬戸 水 域
	水島地先海域 (別記2)	Ⅱ	イ		
	備讃瀬戸 (イ) (別記3)	Ⅱ	イ		
	備讃瀬戸 (ロ) (別記4)	Ⅱ	イ		
	備讃瀬戸 (ハ) (別記5)	Ⅱ	イ		
	児島湾 (別記6)	Ⅳ	イ	H10. 3. 20 (岡山県告示第190号) H16. 2. 27改訂 (※) (岡山県告示第105号) H16. 10. 29改訂 (地名変更) (岡山県告示第618号)	
	児島湾沖 (別記7)	Ⅱ	イ		
	牛窓地先海域 (別記8)	Ⅱ	イ		
	播磨灘北西部 (別記9)	Ⅱ	イ	H 9. 4. 28 (環境庁告示第19号) H15. 3. 27改訂 (※) (環境省告示第35号)	播磨灘北 西部水域

(備考) 達成期間の分類は次のとおりとする。

イ：直ちに達成。

ロ：5年以内で可及的速やかに達成。

ハ：5年を超える期間で可及的速やかに達成。

ニ：段階的に暫定目標を達成しつつ環境基準の可及的速やかな達成に努める。

(※) 海域の全窒素、全りんについては、平成15年3月27日付け環境省告示第35号及び平成16年2月27日付け岡山県告示第105号で達成期間が改正され、暫定目標が廃止された。

別記

- 倉敷市川崎製鉄株式会社敷地東南端と同市宮の鼻南端を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域（水島港区）
- 倉敷市灯籠崎南端と岡山県上濃地島北端を結ぶ線、同地点と同県大濃島東端を結ぶ線、同地点と同県イザノロジ島南端を結ぶ線、同地点と同県上水島北端を結ぶ線、同地点と同県下水島北端を結ぶ線、同地点と同県寄島南端を結ぶ線、同地点と同県寄島町青佐鼻東端を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域であって、水島港区に係る部分を除いたもの（水島地先海域）
- 玉野市出崎と香川県井島へラガ崎を結ぶ線、同島鞍掛鼻と同県豊島ダッダカ鼻を結ぶ線、同島礼田崎と高松市長崎鼻を結ぶ線、倉敷市灯籠崎南端と香川県本島東端を結ぶ線、同地点と坂出市砂弥島北端を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域（備讃瀬戸(イ)）
- 倉敷市灯籠崎南端と香川県本島東端を結ぶ線、同島カブラサキ鼻と同県広島東端を結ぶ線、同島西端と岡山県真鍋島東端を結ぶ線、同島南端と同県六島北端を結ぶ線、同島南端と同地点から南西方5,900m地点（北緯34度16分59秒、東経133度30分56秒。以下「A点」という。）を結ぶ線、同地点と広島県宇治島南端を結ぶ線、同県西端と福山市狐崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域であって、水島港区、水島地先海域及び箕島町地先海域に係る部分を除いたもの（備讃瀬戸(ロ)）
- 坂出市砂弥島北端と香川県本島東端を結ぶ線、同島カブラサキ鼻と同県広島東端を結ぶ線、同島西端と岡山県真鍋島東端を結ぶ線、同島南端と同島六島北端を結ぶ線、同島南端とA点を結ぶ線、同地点と香川県三崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域（備讃瀬戸(ハ)）

- 6 岡山市西大寺正儀5203番地と岡山市小串321番地とを結ぶ線、児島湖えん堤及び陸岸により囲まれた海域（児島湾）
- 7 岡山市西大寺宝伝字赤石3257番地の2から玉野市沼灰山1015番地の1に至る陸岸の地先海域であって、児島湾に係る部分を除いたもの（児島湾沖）
- 8 瀬戸内市邑久町福谷5288番地から岡山市西大寺宝伝字赤石3257番地の2に至る陸岸の地先海域（牛窓地先海域）
- 9 相生市金ヶ崎と兵庫県西島手繰干崎を結ぶ線、同地点と香川県小豆島藤崎を結ぶ線、同地点と岡山県猪ノ鼻を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域（播磨灘北西部）

(4) 海域－全亜鉛等

区分	あてはめ水域名	該当類型	達成期間	類型指定年月日	備考
海域	備讃瀬戸（別記1）	海生生物A	イ	H 27. 3. 31 (環境庁告示第51号)	備讃瀬戸水域
	備讃瀬戸（イ）（別記2）	海生生物特A	イ		
	播磨灘北西部（別記3）	海生生物A	イ	〃	播磨灘北西部水域
	播磨灘北西部（イ）（別記4）	海生生物特A	イ		

（備考）達成期間の分類は次のとおりとする。

イ：直ちに達成。

ロ：5年以内で可及的速やかに達成。

ハ：5年を超える期間で可及的速やかに達成。

ニ：段階的に暫定目標を達成しつつ環境基準の可及的速やかな達成に努める。

別記

- 1 玉野市出崎から香川県井島へラガ崎まで引いた線、同島鞍掛鼻から同県豊島ダーダガ鼻まで引いた線、同島礼田崎から高松市長崎鼻まで引いた線、福山市狐崎から同市宇治島西端まで引いた線、同島南端から香川県三崎まで引いた線及び陸岸により囲まれた海域であって、備讃瀬戸（イ）及び備讃瀬戸（ロ）に係る部分を除いたもの（備讃瀬戸）
- 2 岡山県玉野市出崎と香川県井島へラガ崎を結ぶ線、同島鞍掛鼻と同県豊島ダーダガ鼻を結ぶ線、同島礼田崎と同県高松市長崎鼻を結ぶ線、浦生漁港5号防波堤先端と同港4号防波堤先端を結ぶ線、高松港（朝日・屋島）新川東防波堤先端、同港G地区1号防波堤北東角と同港外防波堤北端を結ぶ線、同防波堤南端と高松港（玉藻）玉藻地区玉藻防波堤先端を結ぶ線、同港西浜1号防波堤先端と同港西浜2号防波堤先端を結ぶ線、高松漁港9号防波堤先端と同港8号防波堤先端を結ぶ線、高松港（弦打）貯木場東防波堤先端と同港貯木場北防波堤先端を結ぶ線、高松港（神在）神在港東防波堤先端と同港神在港西防波堤先端を結ぶ線、高松港（香西）香西港東防波堤先端と同港香西港西防波堤先端を結ぶ線、高松港（生島）岡組護岸西角と同港生島北防波堤先端を結ぶ線、同港小坂東防波堤先端と同港生島防波堤先端を結ぶ線、亀水漁港1号防波堤先端と同港2号防波堤先端を結ぶ線、木沢港関西物産棧橋先端と同港1号突堤先端を結ぶ線、乃生漁港1号防波堤先端と同港2号防波堤先端を結ぶ線、同県坂出市王越町乃生地先の陸地の地点（北緯34度22分32秒、東経133度53分16秒）と同地点から西方3,510mの地点（北緯34度22分29秒、東経133度50分58秒）を結ぶ線、同地点と同地点から南方1,590mの地点（北緯34度21分37秒、東経133度51分1秒）を結ぶ線、西浦（瀬居島）漁港2号防波堤先端、同港1号防波堤先端と坂出港アジア共石東護岸北東角を結ぶ線、北浦漁港1号防波堤先端と同港2号防波堤先端を結ぶ線、丸亀港富士見町2号護岸西端と同港蓬萊町防波堤先端を結ぶ線、同港蓬萊町3号護岸西端と同港昭和町防波堤先端を結ぶ線、

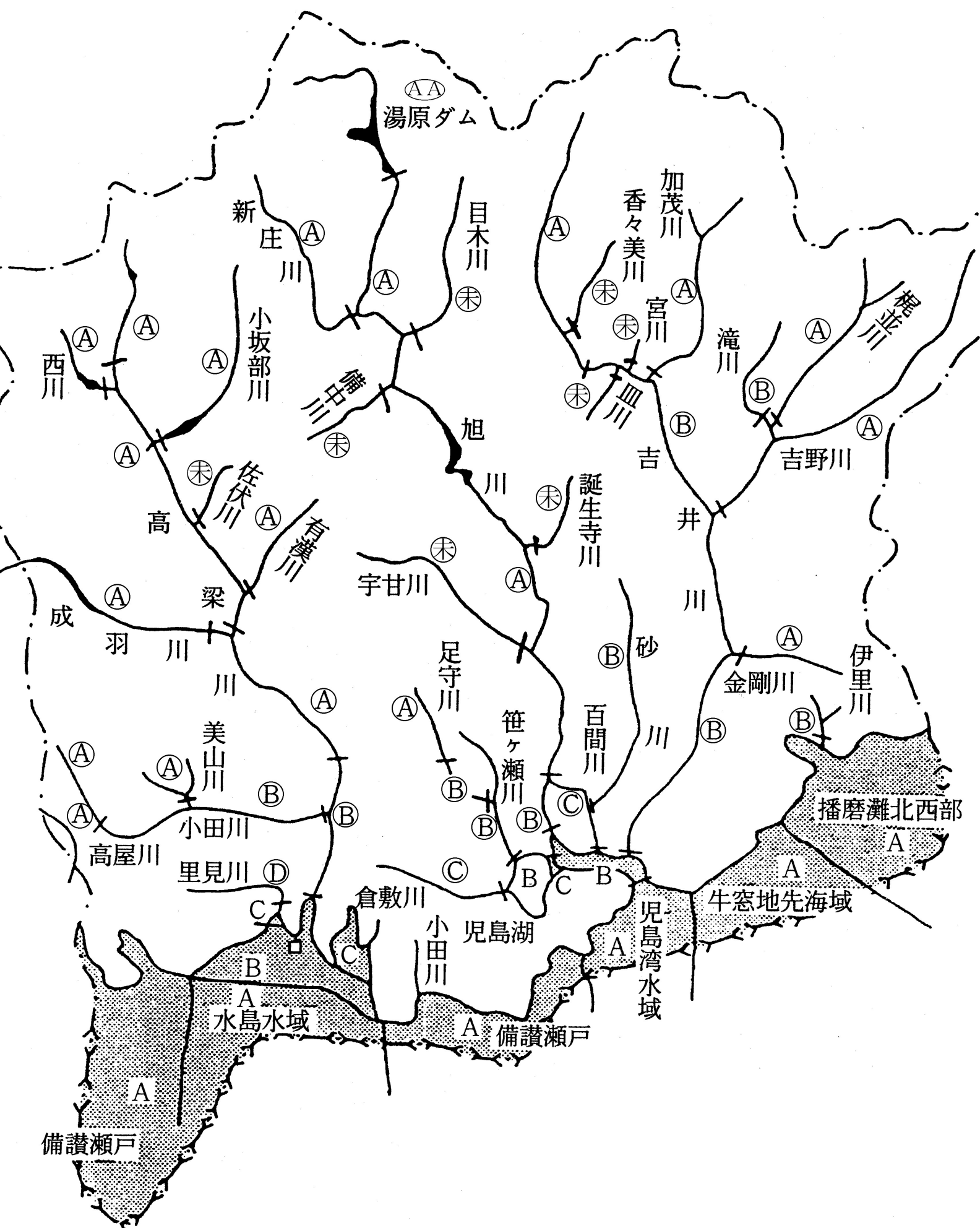
多度津港蛭子港 2 号防波堤先端と同港蛭子港 1 号防波堤先端を結ぶ線、同港常石造船北側護岸西端と同港西防波堤先端を結ぶ線、同港昭和石油油槽所護岸南西角と同港西港町西防波堤先端を結ぶ線、白方漁港第 4 防波堤先端と同港第 3 防波堤先端を結ぶ線、見立港（北） 2 号防波堤先端と同港 1 号防波堤先端を結ぶ線、見立港（南） 3 号防波堤先端と同港 4 号防波堤先端を結ぶ線、詫間港（詫間）水出 A 護岸北東角と同港高谷防波堤 3 号先端を結ぶ線、詫間港（高谷鼻）ゴマジリ地区 1 号防波堤先端と同港ゴマジリ地区 2 号防波堤先端を結ぶ線、詫間港（新浜）新浜防波堤先端と同港須田一文字防波堤東端を結ぶ線、同防波堤西端と同港須田防波堤先端を結ぶ線、船越港船越防波堤先端と同港船越 2 号防砂堤先端を結ぶ線、積漁港 3 号防波堤先端と同港 1 号防波堤先端を結ぶ線、箱浦港竹生島防波堤先端と同港沖防波堤先端を結ぶ線、同県三豊市三埼と広島県宇治島南端を結ぶ線、同島西端と同地点から北西方 4,890m の地点（北緯 34 度 20 分 29 秒、東経 133 度 24 分 54 秒）を結ぶ線、同地点と同地点から北東方 2,090m の地点（北緯 34 度 21 分 31 秒、東経 133 度 25 分 21 秒）を結ぶ線、同地点と同地点から北東方 9,820m の地点（北緯 34 度 26 分 15 秒、東経 133 度 27 分 58 秒）を結ぶ線、同地点と同地点から東方 790m の岡山県笠岡市神島の陸地の地点（北緯 34 度 26 分 28 秒、東経 133 度 28 分 25 秒）を結ぶ線、笠岡港（神島外）西側防波堤先端と同港一文字防波堤南端を結ぶ線、同防波堤北端から引いた延長線上の同港中央部防波堤を結ぶ線、同防波堤東端と同港東側防波堤先端を結ぶ線、笠岡港（瀬溝）東側防波堤先端から西方に引いた線上の護岸を結ぶ線、正頭漁港新西側防波堤先端と同港一文字防波堤南端を結ぶ線、同防波堤北端と同港東側防波堤先端を結ぶ線、同港 B 防波堤先端と同港 A 防波堤先端を結ぶ線、寄島漁港（三郎）三郎 4 号防波堤先端と同港三郎カーテン式防波堤先端を結ぶ線、寄島漁港（西安倉）西側防波堤先端と同港早崎一文字防波堤南端を結ぶ線、同防波堤北端と同港早崎東防波堤先端を結ぶ線、同港西安倉西防波堤先端と同港西安倉一文字防波堤南端を結ぶ線、同防波堤北端と同港沖防波堤南端を結ぶ線、同防波堤北端と同港中安倉防波堤先端を結ぶ線、寄島漁港（東安倉）東安倉防波堤先端と同港東安倉沖防波堤先端を結ぶ線、沙美漁港西南防波堤先端と同港西沖防波堤西端を結ぶ線、同防波堤東端と同港東側防波堤先端を結ぶ線、小原漁港南防波堤先端と同港東側北防波堤南端を結ぶ線、同防波堤北端と同港西側北防波堤南端を結ぶ線、同防波堤北端と同港防砂堤先端を結ぶ線、水島港（玉島・水島・高島）玉島港八幡防波堤北端から引いた延長線上の護岸を結ぶ線、同防波堤南端、同港玉島防波堤南端と同港玉島ハーバーランド南西護岸角を結ぶ線、同港玉島ハーバーランド南東護岸角と同港廃棄物処理護岸南西端を結ぶ線、同県倉敷市水島川崎通の陸地の地点（北緯 34 度 28 分 13 秒、東経 133 度 44 分 36 秒）と同地点から南東方 1,410m の地点（北緯 34 度 27 分 52 秒、東経 133 度 45 分 25 秒）を結ぶ線、同地点と同地点から北方 500m の地点（北緯 34 度 28 分 8 秒、東経 133 度 45 分 28 秒）を結ぶ線、通生漁港第 1 防波堤先端と同港離岸堤北端を結ぶ線、同離岸堤南端と同港導流堤先端を結ぶ線、水島港（高室）北側防波堤先端と同港中央部防波堤折角を結ぶ線、同防波堤先端、同港南側地区の西側防波堤先端と同港高室突堤先端を結ぶ線、水島港（大室）北側防波堤先端と同港中央部防波堤折角を結ぶ線、同防波堤先端と同港東側防波堤先端を結ぶ線、下津井港西側防波堤先端と同港東側防波堤西端を結ぶ線、同防波堤東端から引いた延長線上の護岸を結ぶ線、下津井漁港下津井西防波堤先端と同港下津井一文字防波堤西端を結ぶ線、同防波堤東端と同港下津井第 1 防波堤先端を結ぶ線、同港吹上第 1 防波堤先端と同港田の浦西防波堤Ⅱ西端を結ぶ線、同港西側田の浦一文字防波堤東端、同港田の浦第 3 防波堤先端、同港東側田の浦一文字防波堤東端、同港田の浦第 2 防波堤先端と同港田の浦第 1 防波堤先端を結ぶ線、大島漁港南側防波堤先端と同港北一文字防波堤南端を結ぶ線、同防波堤北端と同港北側一文字防波堤先端を結ぶ線、児島港（味野）元浜埠頭護岸北角と同港一文字防波堤西端を結ぶ線、同防波堤東端と同港味野埠頭護岸南角を結ぶ線、同護岸北角と同港味野地区（一） 5.5 岸壁南角を結ぶ線、同岸壁北角と児島港（萱刈）北側防波堤先端を結ぶ線、児島港（和井田）西側防波堤先端と同港東側防波堤先端を結ぶ線、児島港（琴浦海岸）西側防波堤先端と同港一文字防波堤西端を結ぶ線、同防波堤東端から引いた延長線上の同港下村 A 号護岸を結ぶ線、児島港（琴浦）西側防波堤先端と同港東側防波堤先端を結ぶ線、児島港（田の口）西側防波堤先端と同港東側防波堤先端を結ぶ線、児島港（唐琴）西側防波堤先端と同港東側棧橋先端を結ぶ線、渋川港 1 号防波堤先端と同港 1 号防砂堤先端を結ぶ線、宇野港（日比）西 4 号防波堤先端と同港東 6 号防波堤先端を結ぶ線、宇野港（玉）玉西防波堤先端と同港一文字防波堤南端を結ぶ線、同防波堤北端と同港瀬越防波堤先端を結ぶ線、宇野港（宇野）ナキンダ鼻と同港防波堤先端を結ぶ線、宇野港（日ノ出）日ノ出 3 号防波堤北角、同港中央部岬、同港日ノ出 2 号防波堤先端と同港長崎を結ぶ線、宇野港（田井）南側護岸角と同港田井 3 号防波堤先端を結ぶ線、同港田井 2 号防波堤先端、同港田井第 1 号防波堤東端と同港童崎南側岬を結ぶ線、野々浜港 1 号防波堤先端と同港 3 号防波堤東端を結ぶ線、同防波堤西端と同港 2 号防波堤先端を結ぶ線、大藪港 4 号護岸角と同港南側防波堤北端を結ぶ線、同防波堤南端と同港東側防波堤南端を結ぶ線、同防波堤北端と同港北側防波堤先端を結ぶ線、後閑港 1 号護岸角と同港 2 号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域（ただし、香川県屏風島北端と同県喜兵衛島北西端を結ぶ線、屏風港 1 号防波堤先端と同港 4 号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、同県直島獅

子渡ノ鼻と同県寺島早崎を結ぶ線、同島東先端と直島重石ノ鼻を結ぶ線及び陸岸、宮浦港北防波堤先端と同港沖2号防波堤北端を結ぶ線、同防波堤南端と同港串山ノ鼻を結ぶ線及び陸岸、直島港石場1号護岸角と同港石場防波堤西端を結ぶ線、同防波堤東端と同港石場1号物揚場先端を結ぶ線及び陸岸、同港北防波堤先端、同港一文字防波堤先端と同港南防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、積浦漁港ベザイ天と同港北沖防波堤北端を結ぶ線、同防波堤南端と同港沖防波堤北端を結ぶ線、同防波堤南端から引いた延長線上の陸岸を結ぶ線及び陸岸、男木港一文字防波堤先端と同港南防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、男木漁港2号防波堤先端と同港1号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、西浦（女木島）漁港5号防波堤先端、同港6号防波堤先端と同港1号防砂堤先端を結ぶ線及び陸岸、女木港西防波堤先端と同港東防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、同港鬼ヶ島防波堤先端と同港鬼ヶ島防波堤（2）西端を結ぶ線、同防波堤東端と同港鬼ヶ島防波堤（3）先端を結ぶ線及び陸岸、松島港松島第1号防波堤先端と同港松島第2号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、櫃石漁港（北）1号防波堤先端と同港2号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、櫃石漁港（南）3号防波堤先端と同港4号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、岩黒漁港1号防波堤先端と同港4号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、与島港塩浜2号防波堤先端と同港与島東2号岸壁西端を結ぶ線及び陸岸、同港大津北防波堤先端と同港大津南防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、同港浦城第2号防波堤先端と同港浦城第3号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、同港穴部東防波堤先端と同港穴部南防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、笠島漁港E防波堤先端と同港D防波堤西端を結ぶ線、同防波堤東端と同港C防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、本島港（甲生）9号防波堤先端と同港7号防砂堤先端を結ぶ線及び陸岸、本島港（泊）7号防波堤先端と同港6号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、本島港（小阪）10号防波堤先端、同港12号防波堤先端と同港34号護岸東角を結ぶ線及び陸岸、生ノ浜港1号防波堤先端と同港2号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、尻浜港1号防波堤先端と同港2号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、福田（本島）漁港3号防波堤先端と同港1号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、里浦港1号物揚場先端と同港4号防波堤西端を結ぶ線、同防波堤東端と同港1号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、小浦港1号防波堤先端と同港1号堤防東端を結ぶ線及び陸岸、江の浦港（立石）12号防波堤先端と同港11号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、江の浦港（江の浦）9号防波堤先端と同港8号防波堤東端を結ぶ線、同防波堤西端と同港7号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、江の浦港（釜の越）3号防波堤先端、同港1号防波堤先端と同港13号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、甲路漁港1号防波堤先端と同港東側護岸西角を結ぶ線及び陸岸、青木港（青木）1号防波堤先端と同港8号防波堤南端を結ぶ線、同防波堤北端と同港12号護岸北端を結ぶ線及び陸岸、青木港（市井）10号防波堤先端と同港1号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、茂浦漁港4号防波堤先端と同港離岸堤西端を結ぶ線、同離岸堤東端と同港1号防砂堤先端を結ぶ線及び陸岸、手島港1号防波堤先端と同港3号防波堤西端を結ぶ線、同防波堤東端と同港2号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、小手島漁港1号防波堤先端と同港東防波堤先端を結ぶ線、同港3号防波堤先端、同港4号防波堤先端と同港2号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、高見港（浦）10号防波堤先端と同港8号防波堤北端を結ぶ線、同防波堤南端と同港9号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、高見港（浜）3号防波堤先端と同港5号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、佐柳港（長崎）1号防波堤先端と同港4号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、佐柳港（本浦）5号防波堤先端と同港9号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、本村漁港2号防波堤先端と同港3号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、志々島港宮ノ浦東防波堤先端と同港宮ノ浦沖防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、上新田漁港4号防波堤先端と同港1号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、栗島港（馬越）馬城2号防砂堤先端と同港馬城1号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、栗島港（栗島）栗島1号防波堤先端と同港栗島5号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、真鍋島漁港（岩坪）G防波堤先端と同港K防波堤西端を結ぶ線、同防波堤東端と同港H防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、真鍋島漁港（本浦）A防波堤先端と同港J防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、湛江漁港A防波堤先端と同港C防波堤南端を結ぶ線、同防波堤北端と同港B防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、前浦港南側防波堤先端と同港一文字防波堤南端を結ぶ線、同防波堤北端と同港北側防波堤南端を結ぶ線、同防波堤北端から引いた延長線上の護岸を結ぶ線及び陸岸、小飛島港北側防波堤先端と同港南側防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、大飛島港（尻替）西側防波堤先端と同港東側防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、大浦港（東側）西側防波堤先端と同港一文字防波堤西端を結ぶ線、同防波堤東端と同港南側護岸東角を結ぶ線及び陸岸、大飛島港（沖浦）南側防波堤先端と同港一文字防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、大浦港（西側）東側防波堤先端と同港一文字防波堤東端を結ぶ線、同防波堤西端と同港西側防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、走漁港（本浦）本浦新西防波堤先端と同港本浦西防波堤先端を結ぶ線、同地点から引いた延長線上の同港東防波堤を結ぶ線及び陸岸、走漁港（唐船）唐船西防波堤先端と同港2号新防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、走漁港（浦友）浦友東防波堤先端と同港浦友一文字防波堤北端を結ぶ線、同防波堤南端と同港浦友新防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、北木島港（楠）東側防波堤先端と同港一文字防波堤東端を結ぶ線、同防波堤西端と同港西側防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、北木島港（大浦）西側防波堤先端と同港東側防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、丸岩港東側防波堤先端と同港東側一文字防波堤東端を結ぶ線、同防波堤西端と同港西側一文字防波堤東端を結ぶ線、同防波堤西

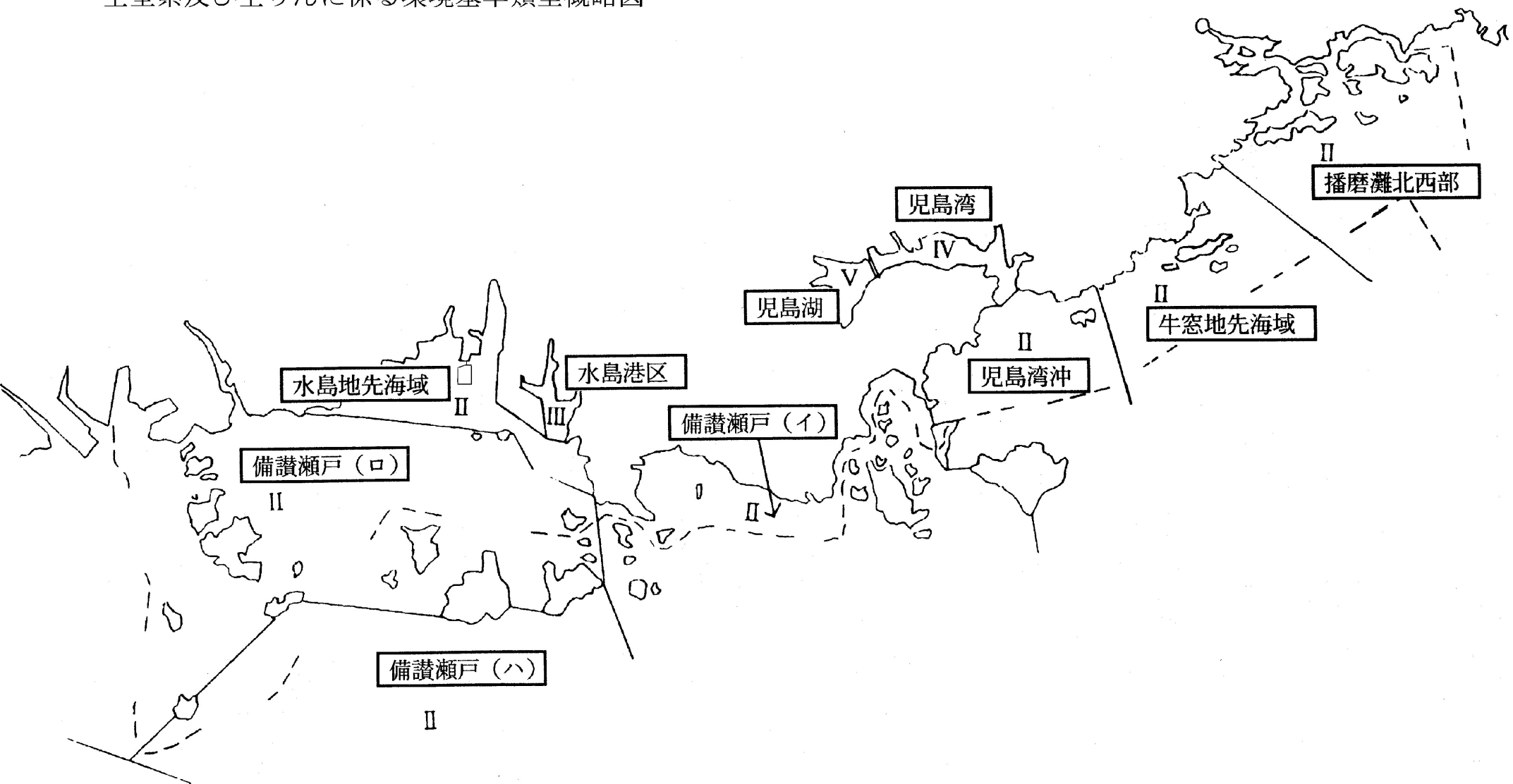
端と同港西側防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、金風呂漁港西防波堤先端と同港東防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、豊浦港3号防波堤先端と同港4号防波堤南端を結ぶ線、同防波堤北端と同港15号-1号護岸南西角を結ぶ線及び陸岸、白石島漁港（C）②防波堤先端と同港①防波堤先端を結ぶ線及び陸岸、白石島漁港（B）E防波堤先端と同港D防波堤先端を結ぶ線及び陸岸並びに高島漁港（黒土）えんろく鼻と同港東防波堤先端を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域を除く。）（備讃瀬戸（イ））

- 3 相生市金ヶ埼から兵庫県西島手繰干埼まで引いた線、同地点から香川県小豆島藤埼まで引いた線、同地点から岡山県猪ノ鼻まで引いた線及び陸岸により囲まれた海域で播磨灘北西部（イ）に係る部分を除いたもの（播磨灘北西部）
- 4 兵庫県相生市金ヶ埼と同県西島手繰干埼を結ぶ線、同地点から南西方2,250mの地点（北緯34度37分54秒、東経134度26分26秒）を結ぶ線、同地点と同地点から西方10,710mの地点（北緯34度36分39秒、東経134度19分36秒）を結ぶ水深30mの等深線、同地点と同地点から南方1,810mの地点（北緯34度35分40秒、東経134度19分42秒）を結ぶ線、同地点と同地点から南東方460mの地点（北緯34度35分32秒、東経134度19分56秒）を結ぶ線、同地点と同地点から南東方2,080mの地点（北緯34度34分28秒、東経134度20分20秒）を結ぶ線、同地点と同地点から南東方1,060mの地点（北緯34度34分8秒、東経134度21分30秒）を結ぶ水深30mの等深線、同地点と香川県小豆島藤埼を結ぶ線、同地点と岡山県瀬戸内市猪ノ鼻を結ぶ線、東備港（鶴海）南側護岸西端と同港北側防波堤先端を結ぶ線、久々井港1号防波堤先端と同港2号防波堤先端を結ぶ線、東備港（片上）日生運輸株式会社貨物営業所東側護岸先端、同港西側防波堤先端と同港東側防波堤先端を結ぶ線、穂浪漁港西防波堤先端と同港東防波堤先端を結ぶ線、東備港（日生）松ヶ鼻の防波堤先端と同港中央部防波堤西端を結ぶ線、同防波堤東端から引いた延長線上の同港ツブロ鼻を結ぶ線、古池港西側防波堤先端と同港東側防波堤先端を結ぶ線、福浦漁港西側防波堤先端、同港中央部防波堤先端と同港東側防波堤先端を結ぶ線、赤穂港西側防波堤先端と同港東側防波堤先端を結ぶ線、坂越港西側防波堤先端と同港東側防波堤先端を結ぶ線、坂越漁港西側防波堤先端と同港東側防波堤先端を結ぶ線、相生港西側防波堤先端と同港東側防波堤先端を結ぶ線、虫明漁港9号防波堤先端と同港10号防波堤先端を結ぶ線、同港7号防波堤先端と同港8号防波堤先端を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域（ただし、頭島漁港西防波堤先端と同港東防波堤先端を結ぶ線、同港E防波堤先端と同港F防波堤先端を結ぶ線及び陸岸並びに大多府漁港西防波堤先端と同港一文字防波堤西端を結ぶ線、同防波堤東端と同港東防波堤先端を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域を除く。）（播磨灘北西部（イ））

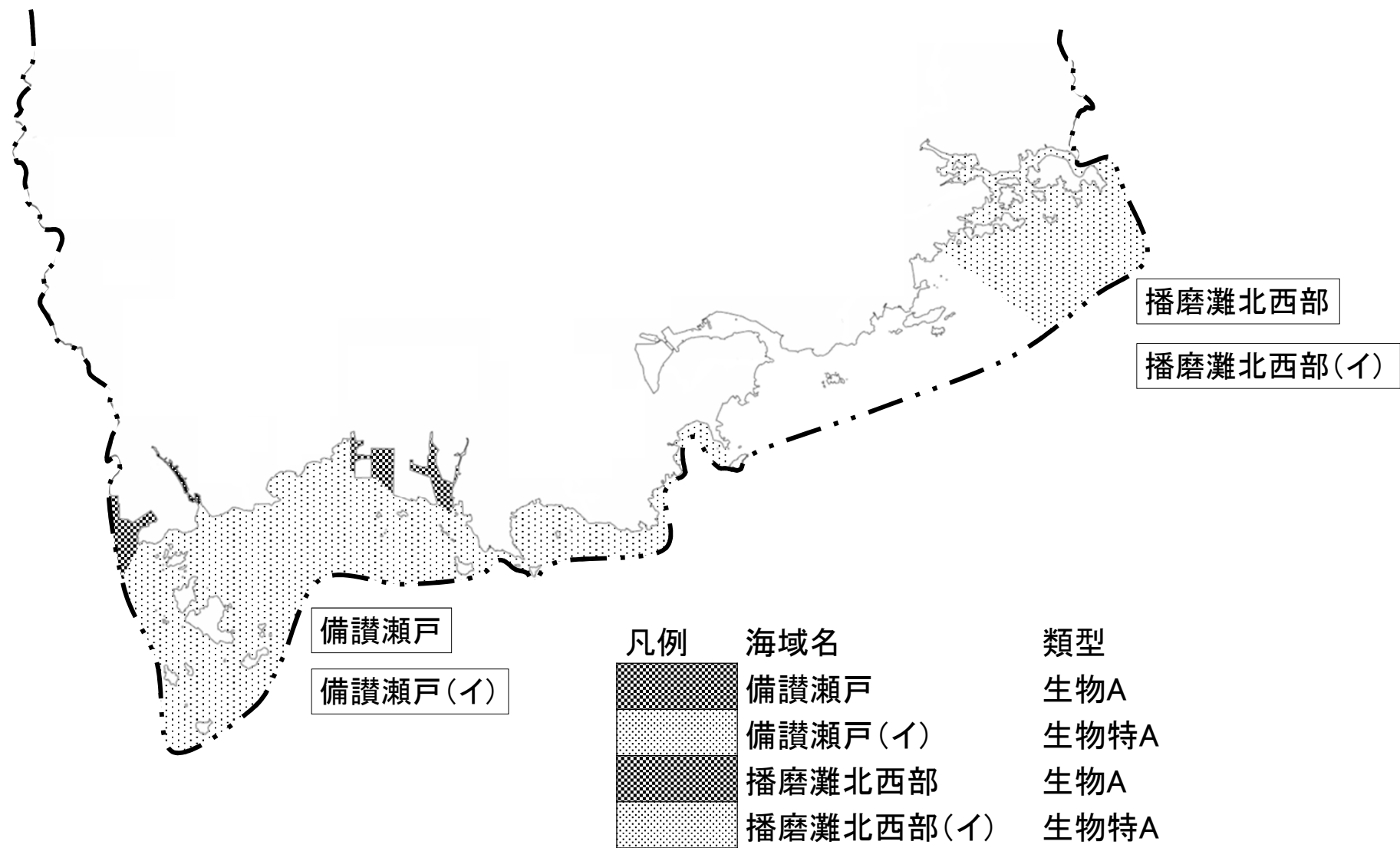
BOD（COD）等に係る環境基準類型指定概略図



全窒素及び全りんに係る環境基準類型概略図



水生生物の保全に係る環境基準類型概略図



※生物A類型で狭小な海域については図示していない